

都 々 逸

しだれ桜で 手は届いても 主ある花なら 是非もない
 もっと甘えて 羽織のひもを 結び直して きつく締め
 寒さにも 弱い人だけ 別れてからの 体が気になる 今朝の露
 わざと残した 着物の袖に どこで取ったか しつけ糸



江戸こぼなし 【 六 歌 仙 】

文屋康秀・大友黒主・喜撰法師・僧正遍昭・在原業平の五人が集まって、まず業平が小町をほめて、「まだ姿を見せぬところをみると、おおかた入念に磨きをかけているものと思うが、あの涼しく澄んだ瞳は男心をわくわくさせる」と言うと黒主が「いやいや、目ともいいが、すんなりのびた鼻筋の気品はなんとも言えぬ」とほめちぎる。それに続いて喜撰法師が「愚僧は小さく結んだいちごのような唇がどうにもたまらん。あんなに形のいい唇は見たことがない」と褒めると康秀がそれに続いて「俺は、うりざね顔の抜けるような肌の白さに惚れ込んだ。見ているだけでぞくぞくする」とほめたてる。僧正遍昭、便所に行こうと立ち上がり、「おいおい、皆まで言ってしまうずに、俺のほめるところも一つだけは取っておけ」

※六歌仙・・・文屋康秀・大友黒主・喜撰法師・僧正遍昭・在原業平・小野小町の六人の歌人をいう。

落語のあらすじ 【 江島屋騒動 】

下総の国の名主の息子が、母娘で暮らす貧乏な娘を見そめて求婚。父の名主は身分の差を気にして、婚礼の支度のためにと五十両を与える。これを持って江戸へ出てきた母娘は、芝の江島屋という呉服屋で婚礼衣装を調えたのだが、これがいかもの。婚礼の席で着物がはがれてあられもない姿をさらす花嫁に名主は激怒。破談となって娘は身を投げて死んでしまう。残された母親のもとに、そうとは知らない江島屋の番頭が訪れて怪談となる。

江戸のことわざ 【 やり拵ととり拵 】

悪徳商人のテクニクである。「やり拵」は両目をすくなくした拵、「とり拵」は両目を多くした拵。米、酒、醤油などを売るときには「やり拵」を用い、買い入れるときには「とり拵」を用いる。悪徳商法の意味である。江戸幕府は全国統一の公定拵を定め他の拵の使用を禁止したが勝手に拵を作って、こうした悪徳商法は盛んに行われていた。

数学の時間 【 鶴 亀 算 】

50g、20g、10g、の3種類のおもりが合わせて35個あり、20gと10gのおもりは同じ数ずつある。また、これら全部の重さの合計は770gである。50gのおもりは何個あるか？

数学の時間・・・答え 46号の答え・・・ 300÷25=12分

歴史への招待

【秀吉の死後 五大老と五奉行】

五大老
 徳川 家康 → 天下取りへ
 前田 利家 → 関ヶ原の前に病死
 毛利 輝元 → 会津若松城主
 上杉 景勝 → 西軍副大将
 宇喜多秀家 → 関ヶ原後八丈島に

五奉行
 浅野 長政 → 東軍へ
 石田 三成 → 小西・安国寺らと挙兵
 長束 正家 → 西軍へ
 増田 長盛 → 家康に内通するも改易
 前田 玄以 → 家康に内通、亀山を安堵

サラリーマン川柳

- あれ程に 塾に通って 普通の子
- こんな子と なげくな我が子 瓜ふたつ
- 我先に 買った物ほど すぐにゴミ
- 行きはゴミ 帰りは 買い物袋さげ
- クラス会 担任よりも 老けた奴

- 正義感 あの一言で 島流し
- 英会話 上司駅前 部下本場
- 先輩と 気軽に呼ぶな 予備校で
- 夢追えば ローンが先に 走り出す
- そっと起き そっと出掛けて そっと寝る

古典の時間

更級日記	藤原道綱の母
源氏物語	松尾芭蕉
奥の細道	吉田兼好
枕草子	近松門左衛門
徒然草	紫式部
好色一代男	十返舎一九
曾根崎心中	清少納言
東海道中膝栗毛	紀貫之
土佐日記	井原西鶴
蜻蛉日記	藤原為経
今鏡	菅原孝標女
方丈記	世阿弥
風姿花伝	鴨長明
歎異抄	唯円
世間胸算用	井原西鶴
雨月物語	上田秋成
南総里見八犬伝	曲亭馬琴

おいしい「天井」のお店

【長野県 飯田市編】



総理の所信表明の時間

小泉元総理	25分
安倍元総理	34分
福田元総理	20分
麻生元総理	21分
鳩山 総理	52分

お知らせ

お読み戴いています『かわらばん ナカニワ』そして他にも少々……
 当社ホームページに載っております。是非ご覧下さい。

<http://www.nakaniwa-cons.co.jp>